

「 榛名川上流砂防堰堤の大切さ 」

群馬県 高崎市立中室田小学校 5年 <sup>あらい</sup>新井 <sup>はるな</sup>遥月

7月12日に、榛名川上流砂防堰堤に行きました。出かける前に災害のおそろしさについて知りました。土砂災害体験車で土砂災害についての疑似体験をしました。

4人家族のお話でした。雨がはじめからたくさん降っていて、男の子は家族と一緒にテレビを見たりしていました。雨はどんどん激しくなっていました。男の子が近くの川をのぞいてみるといつもと違って茶色くにごった水が流れ、石がぶつかり合うゴロゴロという音がしていました。お父さんに話して、家族は急いでひなんをしました。そのあと、川があふれて水や木や石が一斉に私たちの方へ押し寄せてきました。いすもがたがたゆれて映像だとわかっているのに本当に水が来ているようで恐ろしくなりました。私は思わず友だちの腕をつかんでいました。

体験のあと、バスでダムに行きました。バスの中は、ちょっと楽しいような気分でした。バスを降りて山道を歩いて行きました。途中大きな石があったり、川の水がごうごうと流れる音が聞こえたりしました。私はさっきの体験車の土砂災害の様子が思い出されてドキドキしてきました。

ダムに着きました。ダムはとても大きくてびっくりしました。さらにおどろいたのは、このダムは人が一つ一つの石を運んで積み上げて作ったということでした。15mもの高さになるまで石を積み上げるのはどんなに大変だっただろうと思いました。

ダムの働きについてそこでお話を聞きました。高い壁を作ってここで上流から流れてくる土砂を貯め、たまった土砂を少しずつ流します。ダムが土砂でいっぱいになると、川の勾配が緩くなり土砂の流れる力が弱くなることで川底や、山すそが削られるのを防ぐのだそうです。つまり、このダムが人間も自然も守ってくれているのだということでした。

平成21年は、全国45都道府県で、1,518件の土砂災害が発生したそうです。都道府県の数より多く土砂災害が発生しているのでびっくりしました。

今年は、夏の間、雨が多かったので、家の近くの烏川もいつもより水が多く、茶色くにごった流れが何日も続いていて、心配になりました。ニュースでは、青森や熊本などで、土砂崩れや川の氾濫があって被害が出たと流れていました。

台風5号がきたときには、雨がざんざん降って、川がごうごう音をたてていました。町の防災無線の放送は、

「台風5号が上陸して群馬県を通過しています。洪水の恐れがある地域の方々には早めに近くのひなん所へのひなんをお願いします。」

と聞いていました。ひなんを呼びかける広報の車も回ってきました。雨の音とそれからの声でなんだか私はとてもこわくなりました。私の家ではひなんをしませんでしたが、隣の学校にはひなんをしていた人がいたということでした。台風5号ではこのあたりは何の被害もありませんでした。たくさんある砂防ダムが防いでくれているのだなと思いました。

私は、今年も土砂災害がたくさんの人々の住むところや命をうばったことを知り、それを防いでくれるダムはとても大切だと思いました。

私たちができることは、天気予報を見たり、近くの川や崖の様子に気をつけたりして山鳴りや石のぶつかる音や地鳴りなどを聞いたら早めにひなんすることだと思います。

ダムは自然災害から私たちを守ってくれているので、私たちも山や川の自然の様子に気をつけて災害にあわないようにしたいです。